

一般社団法人 日本小児血液・がん学会
第 58 回（令和 2 年度第 8 回）理事会議事録（案）

日 時：令和 3 年 3 月 26 日（金） 15：00～17：20

開 催：web 会議

ホスト：学会事務局（東京都文京区大塚 5-3-13 学会支援機構内）

出席者：大賀 正一（理事長）、米田 光宏、滝田 順子（副理事長）

井上 健、小川 千登世、奥山 宏臣、康 勝好、塩飽 仁、菱木 知郎、天野 功二、
滝 智彦、藤 浩、淵本 康史、多賀 崇、松本 公一、盛武 浩、高橋 義行
（以上理事）、

檜山 英三（監事）、菊田 敦（第 62 回学術集会会長）、井上 雅美
（第 63 回学術集会会長）、越永 従道（第 64 回学術集会会長）、

欠 席 者：西川 亮(以上理事)

冒頭に、本日の理事出席者数は 17 中 16 名であり、定款施行細則第 8 条第 3 項に定める成立定足数を充たしているため、本理事会は成立することを確認した。

続いて、大賀正一理事長が議長となり、以下の議案について逐次審議に入った。

I. 前回理事会議事録（案）の確認

議長より、前回議事録（案）が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

II. 審議事項

1. 入会申請者の件

松本庶務・財務担当理事より、資料をもとに現在の会員数の報告、入会申請者 11 名が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

2. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会 会計について

第 62 回学術集会菊田会長より、資料を基に第 62 回学術集会(2020 年開催)の会計報告がなされた。菊田会長より、収支の余剰金を、学会へ返還する手続きを行い、この中からあらためて奨学寄附として福島医大へ寄付する件に関し議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。但し、学会から特定の団体への利益供与にあたる可能性がある為、事務局にて会計士へ法的に問題が無いかどうかを確認することとなった。

3. 専門医制度規則・細則改正案について

米田専門医制度委員会担当理事より、専門医制度規則と施行細則の改定案について、資料を基に改定案の説明がなされた。

前回理事会での指摘事項であった、小児がん認定外科医の資格更新の要件、専門医研修施設・基幹施設（認定研修施設と関連研修施設に分類する）とその資格更新の要件について、専門医認定・資格更新時の 2022 年度から CLIC の受講必修化について、当学会主催の CLIC（緩和ケア研修会）、LCAS（小

児・AYA 世代のがんの長期フォローアップに関する研修会)、LCAS アドバンス研修の単位認定について、小児がん認定外科医認定・資格更新に際してがん治療認定医資格を保持または、がん治療専門のセミナー受講証を提出することを必須とすることについて、全員異議無く承認された。

・Covid-19 の影響により小児血液・がん関連の経験症例数が減少した場合、救済措置を取ることにに関して要望が届いている。今後委員会内で検討する。

4. 評議員の資格更新についての改定案

規約委員会 滝担当理事より資料を基に説明がなされた。

評議員の資格更新についての定款施行細則改正案について、議場にその承認が求められたところ、全員異議無く承認された。

小児科・小児外科以外の領域の評議員の資格更新の要件を緩和する目的の、その他関連学会の学術集会への参加を更新条件に加える件は、評議員等資格審査委員会にて別途検討中とのこと。

5. 評議員資格の更新に関して

評議員等資格審査委員会 井上担当理事より、資料を基に説明がなされた。

評議員の資格更新のチェックに関して、昨年度(2020 年度)は 200 件を超える申請が有り、更新要件のチェックが委員の大きな負担となった。今年度からは、事務局(学会支援機構)にて電子データを用いて要件の確認を対応いただく(別途費用発生有り)として議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

6. 骨髄微小残存病変量測定(PCR-MRD 検査) 2021 年度施設認定審査(更新)の承認について

保険診療委員会 小川担当理事より、資料を基に説明がなされた。

PCR-MRD 検査施設の 2021 年度施設認定審査に関して、既に認定更新申請の書類が提出され、委員会内での確認の結果、下記施設に関しては合格(認定更新可能)と判断した。

- ・独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
- ・エスアールエル遺伝子・染色体解析センター
- ・株式会社ビー・エム・エル BML 総合研究所

株式会社 LSI メディエンス メディカルソリューション本部に関しては、現時点では更新申請の書類が未着、認定期限が 3 月 31 日付)の為、施設認定が無くなることをお伝えしたところ、更新申請が有るとのこと。3 月 31 日に書類提出が間に合えば通常通り更新とし、間に合わない場合、前年度更新日の 7 月 31 日までに間に合えば、今回に限り 4 月 1 日付の合格(認定更新)とすることをお認めしても良いかどうか、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

議場からは次のような意見が述べられた。

- ・施設の認定更新に際して更新料の発生が有るのか。

⇒更新料の発生有り、認定の結果通知後申請施設に請求している。金額については事務局にて確認のこと。

(会議終了後、事務局より担当委員会より金額について報告済、学会ホームページにも記載済

<https://www.jspho.org/pdf/activity/PCR-MRD.pdf>)

7. 指定難病及び小児慢性特定疾病追加について

大賀理事長より、資料を基に説明がなされた。

造血障害の研究班(伊藤班)から、日本血液学会に溶血性貧血の指定難病化について依頼があり、その後要望書を作成、その後本学会へ、重症度分類についてお認め頂けるかとの確認依頼があった。本学会で問題なれば、それを以て厚労省に提出するとのことであった。議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

また、本件にあわせ、疾患委員会 康担当理事より、2020年12月の小児慢性特定疾病の追加依頼に関して、本学会の疾患小委員会にて追加が有るか確認したが、特に無く、追加要望無しとして回答済。あわせて、小児慢性特定疾病の項目見直し依頼が有り、疾患委員会と、診療ガイドライン委員会で分担して対応した旨の報告がなされた。

8. 先天性血小板減少症・異常症の診療ガイドに関するパブリックコメント募集について

疾患委員会 康担当理事より、疾患小委員会の一つである、血小板委員会にて、「先天性血小板減少症・異常症の診療ガイド」を作成し、学会員へのパブリックコメントの募集を行うことに関して、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

9. 令和3年度 CLIC、教育セミナー共催について

教育研修委員会 盛武担当理事より、資料を基に説明がなされた。

- ・令和2年度 各地区教育セミナーの全日程が無事終了。
- ・令和2年度 CLIC(小児医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会)セミナー 2月27日に実施済。
- ・令和3年度教育セミナーに関して、6つの講演を行う予定で調整中。

あわせて、企業共催セミナーの開催方法に関して、委員会としては、ハイブリッド開催、予算が許せばオンデマンド配信も行う予定、参加企業は1社のみならず複数社共催として趣意書を作成して計画することで議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

- ・専門医認定、資格更新時の CLIC セミナー必修化(2022年度から)

委員会としては、計画どおり令和4年度から専門医更新に必須とするのであれば更新予定者優先として2回開催予定としたい、として議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

10. 学会誌オンライン購読の機関購読に関して

学会誌編集委員会 滝田担当理事より、資料を基に説明がなされた。

ある機関から、図書館と、同じ敷地内の病院内の PC でも学会誌のオンライン閲覧(J-stage)ができるよう依頼があった。機関購読は IP アドレスごとの登録となり、申し込み用紙には注意書で「極めて多数の IP アドレスのご登録は、お断りさせていただく場合もございます」としている。

今回は過去例よりも非常に多い IP アドレス群の申請の希望となっている。委員会内では、「IP アドレスの数に限らず、機関年間購読料は 25,000 円の一律にする」として結論付けられており、IP アドレス数の制限を設けないことについて、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。今後は、1施設複数 IP アドレスでも1購読(25,000円分)とする。施設の基準については、同じ住所であれば同一施設と認めるが、県をまたぐなど、場所が異なる場合、また本院、分院など独立した施設である場合はそれぞれ別施設と判断する、個々の案件に関しては、委員会で判断することも確認された。

また、申し込み用紙の注意書である「極めて多数の IP アドレスのご登録は、お断りさせていただく場合もございます」の文言は削除することあわせても承認された。

議場からは次のような意見が述べられた。

- ・海外のオンラインジャーナルに比べ、現行の購読料：1口 25,000 円は安価に感じる。今後値上げすることは考えられるか。
- ⇒委員会にて検討する。

11. 小児 AYA 世代のがんの陽子線治療ガイドラインについて

大賀理事長より説明がなされた。

日本癌治療学会より、日本放射線腫瘍学会と本学会で共同作成した

「小児 AYA 世代のがんの陽子線治療ガイドライン」を、同ホームページに掲載したい、として依頼があった。議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

12. 学会内資料共有用 Dropbox に関して

大賀理事長より、Dropbox アプリの使用に関して、説明がなされた。

現在まで、堀部元理事長所有の Dropbox を学会として使用していたが、アクセス権の問題や、編集前のものと確定版とが混在していることから、直近数回の理事会資料は Dropbox を使用せず、関係者にのみ配布されている。過去資料に容易にアクセスできず不便な為、今後は、新たに学会所有の Dropbox を用意することが提案され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

今後、金額面も考慮し具体的に導入検討することとなった。

13. 次回理事会 5 月理事会、6 月 JSPHO 総会、JCCG 総会、血液腫瘍分科会合同班会議の日程案について(大賀理事長)

6 月社員総会日程に関して、確定せず、6 月 19 日(土)～7 月末までの土曜日の午後で役員の日程を別途確認し調整することとなった。

5 月理事会に関しては、5 月 28 日(金)15:00～17:00 で確定となった。

6 月教育セミナーの日程に関して、JCCG 総会(小児がん研究グループ)の総会と同日に開催とし、6 月 13 日(日)午後からとして決定した。

14. LCAS(小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップに関する研修会) e-ラーニング費用に関して

松本理事より本件の説明がなされた。

LCAS の e-ラーニングシステムの導入を令和 3 年度より実施する為、見積取得し、令和 2 年度分の事業費(国からの委託金)で対応可能。担当委員会においても承認となっており、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

III. 報告事項

1. 学会ウェブサイト英語化とアップデート、学術集会 KSPHO とのシンポジウムに関して

国際委員会 菱木担当理事より、報告資料を基に説明がなされた。

学会ホームページの英語ページのアップデートが完了した。外部リンクの調整を事務局にて対応する。第 63 回学術集会における日韓(JSPHO-KSPHO)シンポジウムのテーマに関して、委員会内で審議の結果、乳児 ALL をテーマとすることとし、プログラム委員会へ提案することになった。

2. 2022 年度診療報酬改訂の進捗について

保険診療委員会 小川担当理事より報告がなされた。

ブリナツモマブ関連、がんゲノムプロファイリング検査を中心に内保連(内科系学会社会保険連合)へ提出予定だが、もし追加である先生がいたら保険診療委員会へご連絡頂けたら検討可能、とのこと。

3. 学協会における研究公正に関する取組と現状調査について

倫理委員会 奥山担当理事より資料を基に説明がなされた。

日本医療研究開発機構「研究公正高度化モデル開発支援事業」(平成 31 年度)

「研究公正の推進に資する質問紙調査の活用に関する研究」より、日本学術会議協力学術研究団体から「学協会における研究校正に関する取組と現状」調査アンケートが本学会に届き、倫理委員会・学会誌編集委員会にて回答したことについて、報告がなされた。

倫理委員会からの提案として、

・リポジトリ等で公開された学位論文について、「既発表の論文」として取り扱い、二重投稿の対象としているか

⇒現時点していない。

・掲載論文において使用したデータの公開(オープンデータ化)の義務について規程等があるか
⇒現時点では無。

となっているが、今後、学会誌編集委員会にて今後の方針をご検討頂きたいとのこと。

4. 学術集会プログラム委員会での検討事項

学術集会プログラム委員会 米田担当理事より報告がなされた。

- ・第 62 回小児血液・がん学会学術集会(2020 年開催)の優秀ポスター賞を選定した。
- ・第 63 回小児血液・がん学術集会(2021 年開催予定)

厚労科研赤司班・ゲノム医療教育班に参加されている村松秀城先生(本学会評議員、名古屋大学小児科)からの提案として、血液腫瘍に関するゲノム教育企画を日本小児血液・がん学会学術集会で取り上げる。

議場からは次のような意見が述べられた。

- ・本学会の理事長諮問委員会の 1 つである、遺伝性腫瘍委員会も一緒に協力してプログラムの策定について作業を進めて頂きたい。

5. 小児血液・がん専門医到達目標の改定案について

専門医制度委員会 米田担当理事より到達目標の改定案が示され、内容確認頂き、不明点が有れば専門医制度委員会へ連絡頂くよう報告がなされた。

以下、理事長より報告。

6. 朝日新聞投稿のお返事

東京工科大学医療保健学部看護学科 小原先生(名誉会員)より、2021年3月17日 朝日新聞掲載の「ひととき」欄に、50年前に白血病で2人のお子さんを亡くされた親御さんからの寄稿が有り、JCCG、本学会連名でお返事することについて、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。JCCG 理事会で承認後、再度校正を行い、朝日新聞社へ提出予定。

7. 移植患者に対する Covid-19 ワクチン声明

日本血液学会、及び日本造血細胞移植学会連名で、新型コロナウイルス感染症蔓延下における血液疾患診療についての留意事項が発表された。本学会会員も声明作成に携わったので、参考資料として取り上げた。

8. 遺伝性腫瘍委員会の委員交代

本学会の理事長諮問委員会の一つである、遺伝性腫瘍委員会の委員に1名の辞任が発生。辞任された先生からの推薦として後任に、服部浩佳先生(名古屋医療センター遺伝診療科/小児科)が挙げられており、服部先生への委嘱に関して、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、出席した理事長及び監事がこれに記名押印又は署名する。

令和3年3月26日

日本小児血液・がん学会 第58回理事会

理事長 大賀正一 ⑩

監事 檜山英三 ⑩